

平成31年度第1回精華町社会教育委員会議 会議録

■日時

平成31年4月25日（木）午後1時30分から3時まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- ・田中 智美 ・白畑 丈子 ・高鍋 房美 ・吉川 博文 ・尾崎 麻由美
 - ・谷 譲二 ・堀内 保寛 ・瓦 俊夫 ・網野 俊賢
- （欠席：清水委員、上村委員、村上委員）

■出席事務局職員

- ・教育長：川村 智
- ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：石崎 勝巳
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：河西 聖子

■傍聴者

なし

■内容

【会議】

1 開会

吉川委員長

- あと5日後には令和へ変わる節目の年度、皆さん方の英知を結集していただき、充実した社会教育委員会になりますよう、よろしくお願ひしたい。
- 3月中旬にベトナム、カンボジアへ旅行をした。米朝会談の開かれたベトナムを見たかったのと経済成長が著しいと聞いたためである。ベトナムは南北に長い日本と地形が似ており、面積は日本の九州分狭く、人口密度が近い。勤勉でまじめでコツコツ仕事をするということも似ていると言われてい

る。ただ違うのは平均年齢であり、日本の45歳に比べ、ベトナムは29歳ととても若い。ベトナム戦争、中越戦争が大きな要因である。ベトナムは、町は雑然としているが、エネルギーが非常に大きい。日本は少子高齢化の進行とともに、成熟した社会になってきているが、ベトナムはこれから発展していく元気な国だと感じた。

2 教育長あいさつ

川村教育長

- いよいよ平成も今日を入れてあと6日。元号が変わると時代が変わると言われるが、最近では超スマート社会が次にやってくると言われている。現実の空間とサイバー空間の融合した社会となり、AIが普及してくるといようなことだと思う。
- そのため、学校で習ったことが役に立たなくなる、仕事が無くなると、世界的にも懸念が表明されている。我が国でも高齢化が進み子どもが減り、人口が東京圏、あるいは地方においても大都市圏に集中して地方社会が弱体化していくということが、これから身近な社会でも出てくるのではないかと。既に地域のコミュニティが弱ってきているということで、精華町においても、次の担い手が育っていかねばならないと言われる。
- 国・府では施策として、地域学校協働活動に力を入れている。地域学校協働本部事業は全町で実施しており、コミュニティ・スクールは現在精華中学校のみである。学校も地域も元気になるのであれば、研究してはどうかと考えている。府教育委員会の資料で「人がつながる地域づくり」という図を新しく作成されているので確認していただきたい。
- それから、教員の働き方改革が今言われている。全労働者への話もあるが、教員も月45時間、年360時間を上限とするガイドラインが文部科学省から出ている。これまでも取り組んできたが、なかなか成果が上がっていない。文部事務次官通知も出た。みなさまにも具体的な状況をご理解いただきたい。コミュニティ・スクールや地域学校協働本部なども取り組みながら、進めていけないかと考えている。
- この間いろいろな団体の総会に出させていただいているが、それぞれの活動でご尽力いただけていることに感謝申し上げます。

3 報告

(1) 学校教育・社会教育 指導の重点

【説明趣旨】

- 社会教育の指導の重点については、前回の委員会でご説明させて頂いてから、内容に変更はない。全体的に見出しを付けたり、主語を入れたり、表現を変更したり、文章の整理を行った。

- 京都府教育委員会資料「学校教育の重点」「社会教育を推進するために」については、今年度から新しく見開きの右側のページが追加されている。「人がつながる地域づくり」として、昨年度からのテーマの地域と学校の協働活動が特に力を入れられている。

吉川委員長

- 町では「指導の重点」としているが、京都府も以前はそうだったが、今は例えば社会教育は「社会教育を推進するために」というタイトルに変わっている。以前は教員のための資料であったが、今は指導者への手引とともに取組を紹介した内容となっている。この名称については、今後の検討事項としてはどうか。

事務局

- 今おっしゃった通りで、府では変更した経緯がある。また、精華町教育大綱の項目に合わせるため、項目と内容に少しずれが出る部分がある。今のお言葉を踏まえて十分検討して、また皆さんにお諮りしたい。

吉川委員長

- 配布している範囲は？町立学校の他は？

事務局

- 教育委員、教育委員会職員には配布している。
- 指導の重点は、行政部内において、あるいは学校の校長先生方から職員を学校経営する上においてこれを基準に仕事をするということであり、特に議会に出したり、各世帯に配布したりはしていない。
- 機能が府と違ってきているので、整理が必要であると考えている。

吉川委員長

- 町の福祉関係部署等と一緒に取り組まなければならない内容もあるため、学校以外にも行政内部も含めて、配布していけばと考えている。

(2) 平成31年度社会教育委員会議の年間行事予定について

【説明趣旨】

- 社会教育委員会議の年間行事予定については、昨年度末の会議でもお渡ししており、新たに追加になったのは7月4日の社会教育・生涯学習・公民館等指導者研修会のみ。
- 町の生涯学習事業の予定については、一年間の町の事業をまとめている。近々としては6月に精華町拡大あいさつ運動に取り組む予定である。

4 議事

(1) 各種委員の選任について（確認）

前年度の分担を確認しながら、次のように決定した。

- ◆京都府山城地方社会教育連絡協議会・理事及び役員：吉川委員長・高鍋副

委員長（後日の役員会で分担が決定される）

- ◆精華町地域で子どもを育てる連絡協議会委員：吉川委員長
- ◆精華町子ども祭り実行委員会委員：尾崎委員
- ◆精華町明るい選挙推進協議会委員：清水委員
- ◆精華町教育委員会所管施設指定管理者評価委員会：吉川委員長
- ◆町民文化賞・スポーツ賞選考委員：吉川委員長
- ◆青少年健全育成協議会協力委員：吉川委員長
- ◆いじめ問題対策委員会：村上委員
- ◆精華町子どもの読書環境づくり推進委員会：田中委員
- ◆精華町町民健康づくり推進協議会委員：村上委員
- ◆人権啓発推進委員会の委員 全員

（２）平成31年度社会教育委員会議の取り組みについて

【説明趣旨】

- 平成30年度は「地域と学校の協働活動」をテーマとした。今年度はこのテーマを発展させるか、また少し視点を変えるかである。また視察先や具体的な活動内容など本年度の取り組みについて、ご意見をいただきたい。

吉川委員長

- テーマについては、昨年度に引き続き「地域と学校の協働活動」とし、ひとつ提案がしたい。去年少し申し上げたが、社会教育委員はそれぞれ団体の代表であったり、地域の活動を行っており、その活動内容をそれぞれ5～10分で行ってはどうか。1回4人ずつではどうか。地域の自治会役員のなり手の問題など話すことはいろいろとある。民生委員をお願いするときも8人も回り苦労した。

堀内委員

- 自分の地域では、なりたいという方が多い。

吉川委員長

- 地域によって違いがありますね。また自分の団体の課題や活動を社会教育委員として報告していただきたい。女性の会についてはどうか。

白畑委員

- なかなか代わりの人が見つからないということはある。支部長さんが変わらずにいてくださるので役員にならなくていいという安堵感で会員が増えているという地域もある。

尾崎委員

- 民生委員について、地域でもなかなか手が見つからない。自分も2期させてもらっているが、次の方は見つかりにくい。もっとやりたいとおっしゃる地域の方をぜひ見つけたいと思っはいるが…。

吉川委員長

●そのため、年齢制限を取っ払ったと聞いた。文化協会、体育協会ではどうか。

堀内委員

●文化協会については、38サークルあり600名近く会員さんがおられるが、皆さん活発に活動されている。ただ高齢者が多い。

谷委員

●本当に高齢化して、今の話の通りなり手が無い。加盟団体はあるが、全体の役をする人がいない。なかなか次がない。

吉川委員長

●PTAの役員についてはどうでしょうか。

高鍋副委員長

●PTA役員をもう随分前にさせていただいていたが、そのときは楽しませていただいた。しかし、その後は特に活動はなかった。役をしたら大変というところばかりが聞こえてくる。役員になっている人は、変な言い方だが好きでやっていると言われる。そう言われたときのショックは大きい。

吉川委員長

●確かにそのように言われることもあります。

高鍋副委員長

●確かに好きでされている方も中にはいらっしゃるし、私も本当にPTAの役員したときにすごくいい経験をさせていただいたので良かったと思う。次の方にいいことがありますよというふうにお勧めはする。しかし、もっと本当に、いろいろな視線でみんなが社会をもっと考えましょう、もっと子供を見守りましょうというのがなかなか浸透していないと思う。

●今、先生の働き方改革が言われているが、テレビなどで、地域の方が印刷するだけのボランティアをしたり、運動場で子どもたちを見守りしたりしていると紹介されていた。その間先生たちは職員室なり教室なりで授業の準備をする。しかしなかなか受け入れていただけない。というのは、個人情報や学校内部の事情が漏れたら困るというような怖さを学校が持っていて、知っている人しか任せられないということが逆に自分たちの首を絞めてしまっている状況ではないか。民生児童委員も同じような状況である。その殻がなくならない限り団体というのは孤立してしまうし、なり手が無いというのは続いてしまうのではないか。

吉川委員長

●瓦委員、学校の視点からPTAの役員さんについてはいかがか。

瓦委員

●働いておられる保護者の方が以前に比べてかなり増えたので、日中の活動は大変厳しい。とって夕方以降に会議や研修会を設定すると、子どもさんがいるので参加できないということもあり、役員をお引き受けいただくというのはなかなか難しい。子どものためにというのは十分皆さんわかっていた

いているが、働いておられる世代の方は時間的に厳しいのではないか。

吉川委員長

- 地域によってはくじ引きで自治会長を決めるところもある。ただ当たった人が大変苦勞されているとも聞いた。話し合って決めるのがいいのだが。

網野委員

- NPOマネジメントアドバイザーをやっていたことがあり、NPOも同じような課題がある。言葉は悪いが「ボランティア蟻地獄像」と言っている。はまればはまるほど大変で、周りの人は大変だと避ける。
- 定年や共働きなど社会構造の変化、社会のためにボランティアがないと成り立たない現実もある。専門職しか担えない仕事とボランティアが支える仕事を分けていけないといけない。
- 精華町がボランティアタウンとでも呼ばれるような、行政と様々な団体が連帯していくということについてモデルになるぐらいで取り組まない限りはずっと変わらない。地域が疲弊していくという危機感はあるが、議論する方策はあるように思う。アメリカはひとりの人に過重な負担にならないように、後継者を作っていくという取り組みをしている。自分でしかできないという自負心が遠ざける面もあるが、どこかで交代していくということを系統的に考えない限りは難しい。抽象的な話になって申し訳ないが。

吉川委員長

- 地域が疲弊する、後継者が育たない、家族構成の変化も含めてだが、そうなっている。
- その辺の苦勞や考え方も含めて5分か10分ぐらいでお話ししていただくということではよろしいか。紙でまとめてもらっても、言葉だけでも構いません。

- ・社会教育委員会全体として了承された。
- ・次回の発表として、吉川委員長、田中委員、白畑委員、網野委員が担当する。
- ・昨年度行われた教育委員との合同研修会は、上記の取り組みもあり、隔年開催を検討し、今年度は準備の年度とする。
- ・視察については、次回案を持ち寄る。
- ・今回は、令和元年7月1日（月）13時30分～と決定した。

(3) その他

【説明趣旨】

- 精華町の公共施設の使用料について審議会を開催し、統一的な見解、使用料の今後の考え方といったものを議論いただいた。施設の減価償却費を料金に反映をさせて、今後の維持管理も含めて運営していくという内容で話し合われ、最終的には料金を改定していくということまで、前回の委員会

でご報告したところである。

- しかし、最終的には議会定例会 3 月会議へ各公共施設の使用料の改定の条例案を出し、消費税が 10 月 1 日から 10 %に引き上げる予定ということで、その消費税分の税率分の上乗せ分だけを料金改定をさせていただくという内容で提案を行い、採決をいただいた。
- あわせて、町内、町外の料金の差について、これまで町外の利用者については町内の倍額の料金としたり、全部時間を使うと 80 %にするといった制度もあったが、これらは今回の見直しで廃止ということになった。
- ただし町内の利用者は、施設予約を二月前からご予約いただけて、町外の方は一月前からと差を設ける。施設の稼働率を上げていくという狙いもある。
- 土日と平日の料金については、審議会でも一本化の意見もあったが、もう少し様子を見るということとなった。現状を整理し、考えていく。
- そう遠くない時期にこの使用者負担も含めた料金改定は必要になってくるだろうということで、今それぞれの施設については資料集めや状況の把握に努めていく。また委員会でもご報告する。
- もう 1 点、精華町のまちづくり基本構想について報告する。教育委員会で抱えている大きな課題の一つに学校給食の問題があり、またもう一つに打越台グラウンドの老朽化に伴う改修がある。
- 打越台環境センターは平成 32 年度で撤去工事が完了すると予定されており、防衛省の補助金事業を活用して、教育委員会としてのこの 2 つの課題を何とかクリアできないかと、過去 3 回懇話会を開き、まとめたものが配布している概要版である。
- 給食センターについては、防災食育センターとして、精華中学校の北側の空き地を利用し、平常時は中学校給食の実施、食育の発信拠点とし、災害時には炊き出し、アレルギー対策の拠点として考えていく。
- 打越台の環境センターについては、今ある施設を撤去してからでないと着手はできないため、平成 35 年度あたりからグラウンドと一体化をしたような防災受援施設、平時はグラウンドと一体化したスポーツ施設や文化財の所蔵や展示コーナー、会議室があるような文化施設であり、災害時には医療チーム等の活動拠点にするという構想である。
- まちづくり基本構想策定懇話会には、高鍋副委員長にご出席いただいている。今後については、今年度基本計画・実施計画を策定し、2020 年度以降は具体的な施設の整備、まずは防災食育センターに着手していく予定である。今後具体的な動き等あったらご説明をしていく。

事務局

- 6 月 14 日の山城地方社会教育委員連絡協議会総会と 28 日の京都府社会

教育委員連絡協議会総会についての内容や参加の確認などは文書で行う。

◎閉会のあいさつ

高鍋副委員長

- 前年度、公共施設使用料の審議会と精華町まちづくり基本構想の審議会へ参加させていただき、知らないこともたくさん教えていただいた。そこで、自分たちで作ったものだから自分たちで守ろうという意識をもっとつくっていかなければならないということに気づいた。税金を払っているのだからと要望をするという意識だけではおかしい。
- 平成から令和になり、嫁姑問題で苦勞された方には今の核家族は夢がかなった時代になったかもしれない。しかしそこから生まれた課題があり、例えば子どもたちを見守る同居家族や地域の方が少なくなった。
- 災害に関しても「想定外」と言われるが、たくさんの方が命を落としたり影響を受けたりした。そうしたことを無駄にしないような防災に対して強いまちをつくり、子どもたちが未来を育むということを掲げている精華町になるように、役に立っていかれたらと思う。

5 閉会